



## クラウドで実現する継続的自動サーババックアップ&インフォメーションマネジメント

<http://members.techtarget.itmedia.co.jp/tt/members/1012/01/news01.html>

2010/12/01 00:00

情報管理・文書保管のサービスで共に世界レベルの信頼を得てきた2社のトップ対談が実現。クラウド時代に信頼できるサーババックアップサービスの在り方を語る。

### 対談者紹介

株式会社データ・キーピング・サービス 代表取締役社長 西山重良氏



1973年、第一勧業銀行(現 みずほフィナンシャルグループ)に入行。国際業務やM&Aなどの投資銀行業務に長年従事。2000年、みずほ証券入社。投資銀行部門担当常務に就任。2005年、同社副社長就任。投資銀行部門、エクイティ部門、IT部門管掌。2008年10月より現職。

アイロンマウンテンデジタル株式会社 代表取締役社長 ガース・ラムジー(Garth Ramsey)氏



2007年11月、アイロンマウンテンデジタル株式会社代表に就任。日本におけるIron Mountain Digitalの経営戦略の策定および実施、同戦略に基づくアジア太平洋地域でのIron Mountain Digitalの事業を担っている。現職就任前は、2004年にIron Mountainが買収したConnected Corporationの日本地区マネージャーを務めるなど、約15年にわたり日本でのビジネスに携わっている。Exodus CommunicationsやCable and Wireless IDCなど、日本国内の企業でさまざまな上級管理職も歴任。

**西山氏(以下、西山)** データ・キーピング・サービスは1972年12月に設立、一般事業法人向けの文書保管業務を開始しました。もともとは100年以上前に設立された日本最古の銀行である国立第一銀行や日本勧業銀行(いずれも現在は、みずほ銀行)の文書を保管する業務から始まっています。申すまでもないことですが、この長い社歴を通じて永久保存の重要書類も含め、保管書類を紛失したことはただの1枚もありません。つまり、文書保管におけるセキュリティをわが国で最も早く意識してビジネスをスタートした会社であるというのがわれわれのアイデンティティーであり、誇り

でもあります。



データ・キーピング・サービス 代表取締役社長 西山重良氏

当初は文書とそれをマイクロフィルム化したものを保管していましたが、その後バックアップテープをお預かりするビジネスに入っていきます。文書、フィルム、テープはすべて物理的な物ですから、最近では文書保管を専門としていなかった倉庫業者さんもこの分野のビジネスに参入しています。しかし、われわれが預かってきたものは万が一のときに金銭で弁償不可能という点で、DNAが違います。このDNAがアイロンマウンテンと共通である点が、協業に至った大前提でもあります。アイロンマウンテンは物理的なデータの保管から一歩前に出て、世界に先駆けてクラウドによるデータバックアップを15年以上前から始めていました。われわれはそのような技術を残念ながら持っていませんでしたので、手を組ませていただいたというわけです。

もう一つ、今回のサービスで実際にデータを保管する(サーバを保有し管理する)のはNTTデータグループ。つまり3社の協業です。いかにアイロンマウンテンが世界的にプレゼンスのある企業とはいえ、門外不出の重要データを米国のサーバに保管することを躊躇する経営者も少なくないと思います。そこで、実際にデータが保管されるのは日本国内であり、運用しているのは信用と実績のあるNTTデータグループだということが、もう一つのポイントとなるわけです。



アイロンマウンテンデジタル 代表取締役社長 ガース・ラムジー氏

**ラムジー氏(以下、ラムジー)** アイロンマウンテンの設立は1951年で、当初はやはりマイクロフィルムやテープなどの物理管理から始まっています。当時は冷戦下でしたので、ニューヨークのトップ企業が重要書類を離れた場所で保管するというニーズがあり、鉱山の地下で文書を保管する事業を始めました。ベッドルームもあり、有事の際にはビジネスに必要な書類とトップの人材がそこに避難もできる施設でした。

デジタルのサービスを始めたのは1994、95年ごろですが、その前からわれわれはドキュメントを単に保管するのではなく、リテンションポリシーやカテゴリゼーションを含んだインフォメーションマネジメントに取り組んでいました。書類

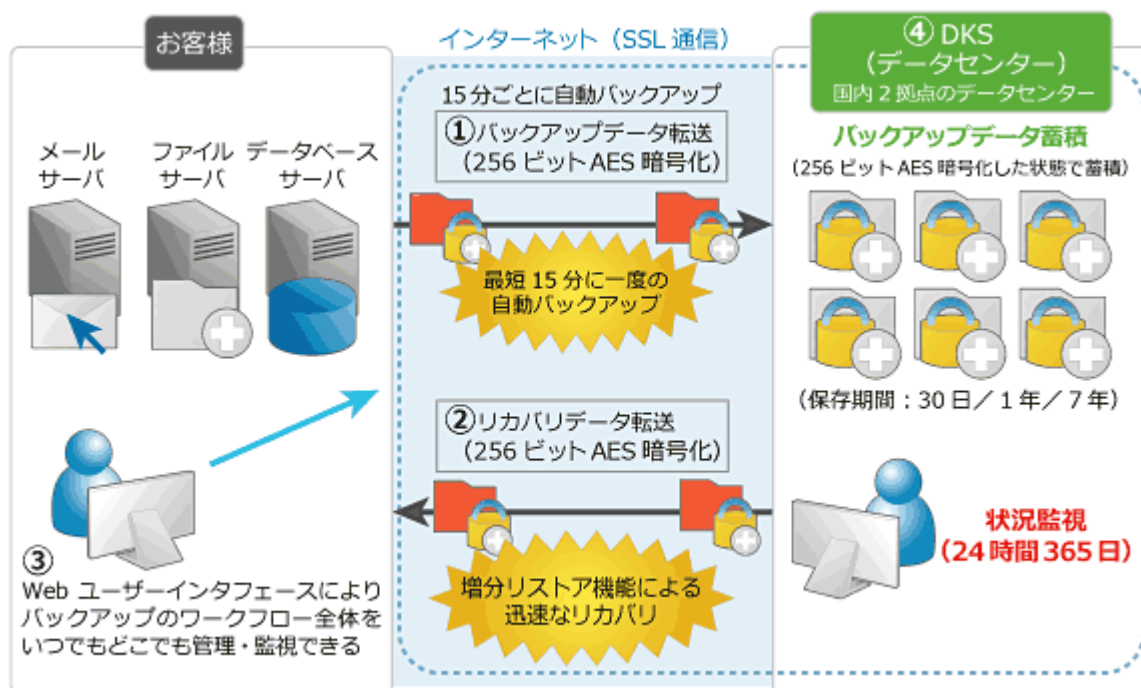
を箱に入れて預かりそれをただ倉庫に置いておくのではなく、“箱の中のどの文書は保存期間がいつまで、それが過ぎたら確実に廃棄するなどのサービスまで含んだビジネスだったのです。それはデジタル化しても同様です。保管するデータを、アクセス権限や保存期間などでカテゴライズし、ライフサイクルを考慮したインフォメーションマネジメントを提供するというのが、われわれの最も大きな特長です。また、保管期限内のデータについては顧客企業のRTO(リカバリータイムオブジェクト: 目標復旧時間)やRPO(リカバリーポイントオブジェクト: 目標復旧地点)をクリアしなければなりません。

**西山** 文書やテープにはメリットもあり、完全にデジタルバックアップに取って代わられるわけではありません。ただし、テープバックアップでは対応しきれない事態があるのも事実です。1つは物理メディアであることのリスクです。磁気テープは必ず劣化しますし、輸送中交通事故に遭うかもしれない。もう1つは時間です。万一の際、復旧のためのテープはもちろんすぐにお届けしますが、テープからの復旧にはかなり時間がかかります。過去のデータを保管しておく義務は果たせても、トラブル時にリカバリするには十分ではないということです。

**ラムジー** ある調査会社のレポートでは、磁気テープの70%はトラブルが発生するという結果が出ています。これは、テープの異常だけでなく人的エラーも含んでいます。テープバックアップは時間がかかりますから、記録したテープを検証することはまずありません。

**西山** 担当者がうっかり忘れることもあるようですし、1人しかいないので風邪で休むとほかの人では分からないというケースも実際に伺っています。ところが「DKSバックアップ&リカバリーサービス®」では、15分ごとに自動的にバックアップされます。そして、数百キロ離れた2カ所のデータセンターにミラーリングしているため、例えば地震でどちらかのサーバがだめになってもデータは安全です。もちろんお預かりしたデータは顧客企業以外、われわれも見ることができない仕組みになっています。

**ラムジー** LiveVaultではスナップショットの技術を使い差分バックアップを行っていますし、トラブル時の復旧も必要なデータだけを戻します。テープの場合はバックアップを取る作業自体に8時間掛かる場合もあります。その間に更新されたデータはバックアップされていません。復旧するときどの時点のデータに戻すかというRPOが明確な企業では、テープでは対応できないことがあります。何分以内に復旧というRTOがあれば、それにも対応できません。LiveVaultのサービスはオンラインで自動、しかも保存データの二重化や暗号化、認証も行っています。



DKSバック

アップ&リカバリーサービス®の概要

**西山** 実際の導入事例を紹介しますと、1000人規模の企業ですがシステム担当者は1人でした。夜間テープバックアップを行っていましたが、時間に追われてきちんと取れているかの確認はしていなかったそうです。それは、もし何かあったときにすぐに復旧できるか不安を抱えているということでした。しかしわが社のサービスを導入した結果、1日1回のバックアップが15分に1回になり、もしバックアップが取れていなければアラートが届くので安心できるようになったそうです。また、トラブル時には24時間365日のヘルプデスクで対応させていただきます。

バックアップのためのシステムを構築し、担当者を2人張り付けるとなれば大変なコストになります。どのような企業

でもできる投資ではありませんし、それによって製品の価格競争力がなくなるとは本末転倒です。その点、このサービスは初期投資が不要で、預けるデータの容量に応じた課金だけです。加えて、担当者の管理負担が減るわけです。

**ラムジー** 今後、日本でもコンプライアンスのためのアーカイブのニーズが増えてくると思います。今このバックアップシステムを使っておけば、将来、必要な情報を速やかに提出できるアーカイブへとスムーズに移行できます。

**西山** わたしは前職で企業の経営再建に携わっていたのですが、多くの企業が技術力や営業力といった企業の本質とは別の部分で経営を危うくしています。その中には企業のコンプライアンスやガバナンスが問題というケースが非常に多い。しかし逆にいえばそういう企業を再生させるのは簡単です。製品・人間・技術が優秀なら、情報管理のツールがあればコンプライアンスやガバナンスは改善できるからです。ツールについては、手探りで負担の大きい内製化をするよりも、初期投資やメンテナンス費用が不要で、高いテクノロジーとノウハウのある技術者によるサービスを受ける方がいいに決まっている。「DKSバックアップ&リカバリーサービス®」をお使い頂ければ、つまらないことで失敗する企業は減るのではないかと思います。

## 関連リンク

- [DKSバックアップ&リカバリーサービス®](#)
- [トライアルお申し込み](#)
- [株式会社データ・キーピング・サービス](#)
- [アイロンマウンテンデジタル株式会社](#)
- [多くの欧米大企業が使う、15年もの歴史を持つクラウドストレージサービスとは\(@IT\)](#)
- [全世界で300万台以上で導入されたクライアントバックアップの「大本命」\(ホワイトペーパー\)](#)

【TechTarget】

Copyright(c) 2010 ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

---

ITmediaはアイティメディア株式会社の登録商標です。